

《2020～21年度世界経済見通し》

世界経済の成長率は2020年が▲4.0%、21年が+5.2%

～足元で持ち直しつつあるものの、年後半の回復力は緩慢～

- (1) 世界経済は新型コロナの感染拡大により、大恐慌以来ともいえる大幅な景気後退局面に。今後を展望しても、世界的に早期に新型コロナの新規感染者がゼロとなる状態を実現するのは困難。年後半は、感染爆発はしないものの、小さな感染流行が断続的に発生しながら、新規感染者数が徐々に落ち着くシナリオが現実的。本格的に収束するのは2021年入り後と想定。
- (2) 2020年後半には世界景気はボトムアウトするものの、第2波への懸念が燦るなか、「V」字回復は展望しがたい状況。むしろ、新型コロナ後の新しい経済モデルを模索するなかで、経済活動が緩やかに持ち直していく「レ」字型になる見込み。その結果、2020年通年の世界経済の成長率は▲4.0%を予想。
- (3) なお、IMFは2020年を▲4.9%と、弊社より▲0.9%ポイント厳しい姿を予想。この理由は、日米欧の年後半の回復ペースについて、IMFの方がさらに緩慢とみている結果。なお、新興国については、弊社とIMFでほぼ同様の予測値。
- (4) 一方、2021年末まで断続的に相当規模の感染拡大が発生し、多くの国で厳しめの移動制限を再開した場合、2020年の世界の成長率は▲7.0%。21年は▲5.0%に。経済政策で対応するのが困難な大恐慌型に。

(図表1)世界経済見通し

	2018年 (実績)	2019年 (実績)	2020年 (予測)	2021年 (予測)
世界計	3.6	2.9	▲4.0	5.2
先進国	2.2	1.7	▲6.1	4.6
アメリカ	2.9	2.3	▲5.3	4.3
ユーロ圏	1.9	1.2	▲7.7	5.6
イギリス	1.3	1.4	▲8.5	6.1
日本	0.3	0.7	▲4.7	2.5
新興国	4.4	3.6	▲2.8	5.5
BRICs	5.8	4.9	▲1.8	7.4
中国	6.8	6.1	0.2	9.1
インド	6.1	4.2	▲4.5	5.6
NIEs	2.8	1.7	▲1.9	2.2
韓国	2.7	2.0	▲1.8	2.2
台湾	2.7	2.7	▲1.0	2.9
香港	2.9	▲1.2	▲6.6	1.5
ASEAN5	5.2	4.8	▲1.4	5.7
インドネシア	5.2	5.0	0.1	5.3
タイ	4.2	2.4	▲7.0	3.3
マレーシア	4.7	4.3	▲1.4	7.7
フィリピン	6.2	5.9	▲2.7	6.7
ベトナム	7.1	7.0	3.0	7.4

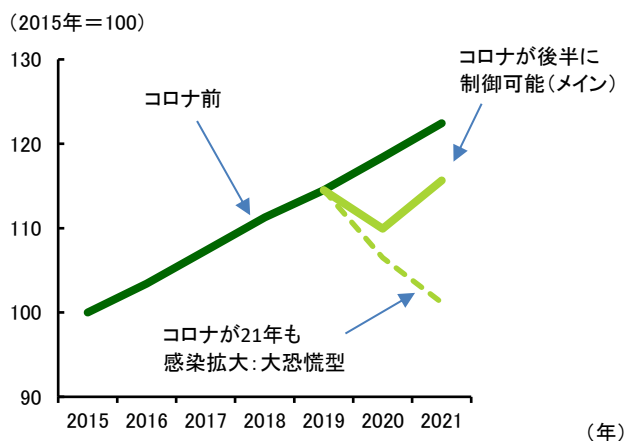
(資料)IMF、各国統計をもとに日本総研作成
 (注1)世界193カ国。先進国は、IMFの分類からNIEsを除く。具体的には、米・日・ユーロ圏(19カ国)のほか、英・豪・加など35カ国。先進国以外を新興国とした。
 (注2)地域は購買力平価ベース。
 (注3)インドのみ年度ベース(当年4月～翌年3月)。

(図表2)新型コロナ感染状況によるGDP成長率予測値(%)

		2020年	2021年
メインシナリオ	年後半は徐々に抑制・収束が進展。本格的な収束は2021年入り後	▲4.0	5.2
サブシナリオ	21年も感染拡大	▲7.0	▲5.0

(資料)IMFをもとに日本総研作成

(図表3)世界GDPの3つのシナリオ



(資料)IMFをもとに日本総研作成

【ご照会先】調査部 マクロ経済研究センター所長 石川 智久 (ishikawa.tomohisa@jri.co.jp, 03-6833-6491)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。